

嶋満神社便り

令和二年四月号(第三十二号)

発行 嶋満神社奉賛会

氏神さま

前号で、「人が生まれてから結婚を含め数々の儀礼を経て成長する過程では神道 葬儀や死者の供養では仏教と、うまく使い分けて」と、私たちと神様、仏様との関わりを述べました。

そう、子供が生まれたらおおむね三十日前後に氏神様へお宮参りをし、新しく氏子になったご挨拶をしますね。

最近では地域の氏神様ばかりでなく、有名な神社へお参りされる方も多く、「氏神様」という概念もあまりなくなってきました。

ではそもそも「氏神様」ってなに？

もともと原始的な神様の信仰とは豊作を祈願したり、実りに感謝したりするときだけに、遠くの家や島に住む神様においていただいて、仮設の祭場でお祭りをしていました。それがいつからか里に神様が常在されることになり、神社ができたことで地縁、血縁を中心とした集団である地域社会の守り神・・・「氏神様」の概念が出来上がってきた・・・ざっとこんなイメージなのでしょうか。

ではこのあたりの氏神様は・・・？

もちろん**白糸浜神社**です。(正確には**白糸濱神社**)

ではそのご祭神は・・・？

「白糸大神」・・・まあいいでしょう。

ここに「浜村の明治期」と題する古い一文があります。

これによると、明治四十五年、**水無月神社**(八雲通富士北 境内が海軍下士卒集会所敷地に買収になったことから同神社並びに**稲荷神社**(大門通りと八島通り間、五条通りと六条通り間・・・現五条公園 筆者注)、**蛭子(エビス)神社**(七条通り八島南)の三社を合祀し、信徒の構成も従来の旧村民から新舞鶴町民有志に変えて新神社を作ることとなった。**新神社は現在の白糸濱神社**である。

・・・とあります。(出典不明・・・得月寺関係文書か?)

そして当時の覚書には・・・

合祀の新神社は**水無月神社**、**稲荷神社**、**蛭子神社**の三神を主神とし・・・と書かれています。

つまり**白糸濱神社**の主なご祭神は**水無月様**(月読命)・・・ツキヨミノミコト・・・食物、農耕の神様)、**蛭子様**(事代主尊・・・コトシロヌシノミコト・・・漁業、商業の神様)、**稲荷様**(保食神・・・ウケモチノカミ・・・食物、五穀豊稔、諸産業発展の神様)、と、この三柱ということになりますね。

京都府地誌(丹後国加佐郡町村誌三)による 注釈筆者

もちろん境内には様々な摂社、末社がお祀りされていますので、参拝の際には本殿の回りをぐるりと回って神様方にご挨拶をいたしましょう。

(白糸濱神社)



ところで、大正十四年発行の「新舞鶴商工案内」には、「**郷社白糸濱神社**」とあり、当社は古来若丹に涉りて尊崇の的となつて居た**水無月神社**と、丹後の泣き恵比須として三丹若越地方にまで有名な**恵比須神社**と**稲荷神社**の三社を合祀し大正四年氏神と尊崇したもので、社名は往時細川幽齋公が一带の海濱小波白砂を洗ふ美観に見惚れ**白糸の濱**と詠むて以来**白糸ヶ濱**と呼ぶに至つた、其地名に縁むたものである。(ほぼ原文)・・・と書かれています。なかなか美文ですね。

さて今年度も始まり、希望の船出、という方々も多いでしょうが、今年には新型コロナウイルスの影響で様々のことが中止となり、残念な四月となりました。皆様方に於かれましても危険な場所へは行かないというご努力を十分にされ、安全にお過ごしいただきますよう、お祈り申し上げます。

資料出典 「八幡神と神仏習合」 達日出典著

「神社の古代史」 岡田精司著